

平成26年度 事業報告

岡山理科大学

理論研究と応用技術を密接に関連させることにより、創造能力の開発を目指す実践の教育を理念とする。



岡山理科大学は創立50周年を迎え、主事業である新1号館の建設が開始された。18歳人口が減少する中、5年連続で志願者を増加させることができたのは、教職員の努力と共に4万7千人にも及ぶ同窓生の支援等も大きい。この5年間では教員の1/3である83人が退職予定である。大きな変革となる期間であり、次のような5カ年の中期目標を掲げる。

- 1.方針：地方都市に位置する岡山理科大学としては、次なる50年を輝いて迎えるために、傑出し特色を持つ必要がある。その方向は「特色ある研究」とそれに立脚した「充実した教育」であり、広い視野を持つ自主・自律の学生を養成する。
- 2.研究環境の整備：基盤整備事業への選定など、研究環境の整備は充実しつつあるが、今後とも重点課題として位置づける。これとともに大学院生、学部学生などの研究指向・能力を高める体制を、また、新分野への展開を迅速に行える支援体制を構築する。
- 3.教育の充実：最先端の研究に立脚した高いレベルの専門教育とともに、建学の理念にも示されているように、科学者・技術者としての教育と同時に社会人としての人格教育が行われなくてはならない。グローバル化をも視野に入れ、カリキュラム構成などの抜本的な改善を行う。
- 4.自己点検システムの実施：昨年度に大学基準協会による認証評価を実施したが、構築したPDCAサイクルを稼働させ、自己点検を実施する。
- 5.社会貢献：岡山理科大学は社会における役割を自覚し、地域貢献事業を積極的に行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献する。

岡山理科大学 学長 波田善夫

教育の充実

■教育学部の設置

教育学部の設置を平成27年4月に予定していましたが、質の高い教育学部とするため、開設を平成28年度にします。平成27年3月に文部科学省に設置認可と課程認定の申請書類を提出しました。(設置認可申請中)

■生体医工学科の名称変更

生体医工学科は再生医療コースを新設し、再生医療の分野を充実すると同時に、社会の認知度を増し本学科の目的である「人類の健康と福祉に貢献する工学技術者研究者」をより多く養成する為に、生命医療工学科に平成27年度より名称変更します。平成26年4月に文部科学省に名称変更の学則変更届を提出し受理されました。

生体医工学科⇒生命医療工学科

■応用物理学科における専攻の定員変更

応用物理学科では近年物理科学専攻の入学者が多く実態に合わせるため、平成27年度より定員を変更します。平成26年4月に文部科学省に定員変更の学則変更届を提出し受理されました。

物理科学専攻30名⇒40名

医用科学専攻40名⇒30名

■ポートフォリオの検討

学生の教育情報を統合したポートフォリオシステムを導入・構築していくにあたり、既存システム

との連携も踏まえ、関係部署間で具体的な検討を行いました。

■ 3つの方針と実効性

平成25年度は大学全体の3つの方針を定め、全学的な教育改善の方針を整えました。平成26年度は、3つの方針の階層間の関係を確認し、さらに最終的な形として学科のカリキュラムポリシーがシラバスに反映されているかを全科目について点検を行いました。さらにFDを内部質保証に繋げる方策の検討を始めました。

■ FDの充実

FD推進室を中心にFDをより一層充実するための取り組みを行いました。2年前に質問項目を大幅に変更した授業アンケートについては、内容の妥当性と結果の活用方法を検討しました。各年度のFD活動の状況を取りまとめ、年度末に開催されたFD活動報告会において組織単位のFD活動の点検を継続して行いました。昨年度から始まった学生によるFD活動を支援していく体制を整え始めました。

■ 理科教育センターの充実

入学時の大切な時期に、共通教育および専門教育担当教員が連携し、高度な専門教育を理解するために欠かせない物理・化学・生物・生命化学・地学・地球科学の基礎となる講義と実験を開講し、初年次教育の充実を図りました。

■ 教養教育センターの充実

1. B1群においては、大学教育改革に向け、グローバル社会に対応した英語教育の改善・充実を図りました。
2. B2群においては、大学教育改革に向け、科目の系統化を図り、科目群の目標をより明確にしました。
3. キャリア支援科目では、「学びの基礎論」からの積み上げ科目である「地域フィールドスタディ」を開講し、平成25年度私立大学教育研究活性化設備整備事業に採択され、施設を整備し、学生の「人間力の育成」や地域の生涯学習社会の構築を

図りました。

■ 数学・情報教育センターの充実

多様な数学学力を持った学生ひとりひとりの能力を伸ばすための数学教育を目行いました。

■ 科学ボランティアセンターの充実

本学の特色を生かした地域貢献型能動的学修プログラムである科学ボランティアリーダー養成事業を引き続き推進しました。平成26年度は特に附属中・高との連携を強化しました。

■ 教職・学芸員センターの充実

平成25年度の教員採用試験現役正規合格者は延べ23名、既卒者を含む正規合格者は延べ89名でした。平成26年度も教職ビデオ講座、教員採用模擬試験、OB・OGの受験報告書の閲覧、教育委員会への直接照会などさまざまな方策で、教員採用試験合格に向けた支援を行いました。

研究の充実

■ 文部科学省等補助金事業

1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

(1) 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度理学部が申請し、採択されました。補助期間5年計画の4年目の事業を行いました。

地球、惑星の過去の環境変動を調べることは、その変動の中をどのように人類や生物が生き抜き、進化してきたか、という我々の過去を知ることで、このことは、将来における地球の環境変化を予測し、いかに対応していくべきであるかを知るためにも重要な課題です。

テーマ1 : 新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2 : 鉱物微小領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度・高精度化、及びその応用

テーマ3 : 新たなルミネッセンス手法による

隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃 変成過程の定量評価

研究者数：10名

代表者：理学部 応用物理学科 教授 豊田新

事業期間：平成23年度～平成27年度（5年間）

(2) QOL向上を目指す支援技術のイノベーション 研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の3年目の事業を行いました。また、中間報告を提出いたしました。

生活支援機器や環境改善によりQOL(Quality of life 生活の質)を向上させるための支援技術に関する2つのテーマに取り組み、ライフ・イノベーションとグリーン・イノベーションの両者を駆使する革新的な研究開発の拠点を形成します。

テーマ1：生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2：環境改善によるQOLの向上

研究者：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度（5年間）

(3) 申請計画

平成26年度は「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に新規2件を申請しましたが、不採択でした。

2. 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制 整備事業

取組名称：産業界との連携による中国・四国地域
人材育成事業【テーマA】

取組内容：中国・四国地域の18大学と中国経済産業局、四国経済産業局、中国経済連合会及び四国経済連合会をはじめ自治体、各県経営者協会、経済団体等が緊密な連携のもとに、大学教育を点検し、産業界等のニーズに応えうる人材養成の体制を充実させることにより、中国・四国地域の振興・活性化に資することを目的としています。

事業期間3年計画の最終年度の取り組みを行いました。

テーマ1：キャリア系授業科目の改善・充実

テーマ2：評価・指導方法の改善・充実

テーマ3：フィールド系教育の改善・充実

取組担当者：工学部 教授 滝澤 昇

事業期間：平成24年度～平成26年度（3年間）平成26年度より、新たに【テーマB】の取組が追加され、採択されました。

事業期間2年計画の1年目の取り組みを行いました。

取組名称：中国・四国圏域での産官学共働による
インターンシップ等の推進【テーマB】

取組内容：既に【テーマA】で行ってきた連携のもとに、PBL やインターンシップ等の地域密着型産官学連携教育を推進することで次世代を担う人材育成の活性化を目指します。

取組担当者：工学部 教授 笠 展幸

事業期間：平成26年度～平成27年度（2年間）

3. 平成26年度私立大学等教育研究活性化設備 整備事業

文部科学省は、教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する「私立大学等改革総合支援事業」を実施しています。

その中で教育の質的転換に係る設備の補助として「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」を申請しましたが、不採択でした。

タイプ名称：タイプ1「教育の質的転換」

申請設備：講義録画システム 一式

取組担当者：学務部 次長 青木 宏之

■総合機器センターの充実

最新機器を導入し最先端の研究を進めるため、平成23年度・24年度と文部科学省補助金により最新鋭の高機能X線回折装置とTOF質量分析装置を導入しました。今年度は補助金利用でのWDS電子プローブ表面分析装置の導入が決まりました。

学生支援

■修学支援

1. アクティブラーニングのサポート

学生の学習活動を支援することを目的に25号館4階講義室の固定机を移動機に変更し、アクティブラーニングに対応できるよう整備しました。

2. 学習相談室のサポート

学習相談室の数学、理科、英語などの科目を担当する教員が、入学後の大学の授業や勉強などについて、わからないことや不安などの質問に答え、学生の学力向上に努めました。

■生活支援

1. 生活支援の充実

学生課では、すべての学生が安心して学業や課外活動など、充実した学生生活が送れるよう、何でも相談できるサポート体制を整えました。また、奨学金の給付及び貸与、ボランティア活動への情報提供なども行いました。

2. 健康相談の充実

健康管理センターでは、全学生を対象に「健康調査票」を配布・回収しました。新入生についてはオリエンテーションで回収し一泊研修あるいは後日呼び出し面談を行い、快適な学生生活のスタートが切れるようサポートするとともに必要があれば学生相談に繋いでいきました。在学生については健康診断時に回収し、簡単な面談後、学生相談に繋いでいきました。また、体調不良等で来室する学生の中で精神的な原因に起因すると思われる場合は、相談室利用を勧めました。

3. ハラスメントへの対応

研修室、学生課と協力して教職員対象に「ハラスメント予防・防止」の研修会を開催しました。また、学生からハラスメントに関する相談がある場合は、学生課、関係部署と連携をとり、学生の気持ちを尊

重しながら心理的サポートを行いました。

■進路支援

1. 就職進路ガイダンス・各種セミナー

就職ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施、計7回実施しました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー、グループディスカッション、SPI、面接対策等各種セミナーを時期に応じて開催しました。また、1年、2年次生の低年次向けガイダンスを年次ごとに数回行い、3年次生対象ガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。

2. 就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を3年次生対象に15回実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座を実施しました。2年次生と3年次生対象の2年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コース、地方上級・国家一般職コースと入門講座の3コースです。3年次生対象の1年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コースと地方上級・国家一般職コースの2コースです。新規に本学独自の公務員対策講座を5回実施しました。

3. 学内会社説明会

学生に様々な企業や業界の研究をさせるため、年間約100社の企業人事担当者を招き、学内会社説明会を随時開催しました。

岡山県産業労働部と共催して学内に会社説明会を6月・10月に実施しました。



4. 就職懇談会

企業人事担当者と教職員との情報交換の場として、就職懇談会を東京・大阪・広島で開催しました。

5. 就職活動解禁日が遅くなる対策

就職活動が12月から3月解禁に変更され、昨年と違った就職活動への対策としてガイダンス等で周知しました。3年生・M1生を対象に就職活動解禁となる3月以降、業者合同会社説明会への大学発無料バスの運行を実施、就職活動解禁と同時に活動ができるようにサポートしました。

6. 就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、vol. 0～4を発刊します。「ME」を各年次のガイダンスで活用・解説しながら入学時から一貫指導を行いました。



7. 就活ダイアリーの発行

3年次の6月に就活ダイアリーを発行・配布し、採用試験・面接・ガイダンス日程などのスケジュール管理や、就活マナー・活動事前準備に活用できるよう指導しました。

8. 就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に4月中旬に「就職・進路懇談会」を実施しました。ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者が面談し、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談に応じました。

9. 学生カルテの充実

学生ひとりひとりの面談記録、セミナー・ガイダンスの参加状況などの就職活動状況をシステムに登録し、教員とキャリアセンターが共有することにより、最善のサポートを目指しました。

10. 適性検査の実施

大学が費用を負担し、1年次生と3年次生全員を対象に適性検査を実施しました。検査後はフォローセミナーを実施し、自己理解を深め、自己をアピールできるよう学生指導しました。

■その他の支援

1. 留学生支援

平成25年度にサウジアラビアより受け入れた留学生別科の留学生を平成26年度、学部に編入学生として受け入れました。また、秋入学の留学生も受入れることにより、春入学の留学生と併せて、修学面、生活面での支援を行いました。

2. 学生メールシステムの gmail への移行

学生Webメールシステムをgmailに移行し、スマートフォンなどの携帯型移動端末の利用便宜を図り、メールシステム全般のサービスを向上しました。

社会連携・社会貢献

■公開講座

岡山県からの委託による生涯学習大学講座(岡山県の特性を学ぶコース)を開講しました。

(8月～9月)

■図書館開放

地域に開かれた大学図書館として、調査・研究または生涯学習などを目的とした利用を希望される地域住民の方に開放しました。また、岡山県内の公共図書館と連携して公共図書館への資料の無料貸出を実施しました。地域の皆様を対象にドクシヨル講演会とプレ・クリスマス・スタディを行いました。



■地域活動への参画

1. 産業界との交流の活発化

以下に挙げる地域産業界との交流行事に参加し、自治体や地元企業との連携や交流を深めました。

- (1) 岡山県主催の「産学官連携交流会」等
【5月23日・10月14日】
- (2) 岡山市(岡山工業会等)県内市町村のビジネス交流会
【5月30日・1月30日】
- (3) ㈱日本政策金融公庫の交流会
【10月6日・2月2日】
- (4) おかやま信用金庫等の金融機関、支援機関主催のしんきん合同ビジネス交流会
【9月10日】
- (5) トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流
【11月6日】
- (6) 技術振興団体(岡山県産業振興財団、山陽技術振興会、SEO等)が主催する交流会
【5月23日・1月26日】
【SEO 7月9日・10月30日】
- (7) 各種技術交流会
【4月21日・2月3日】
さらに、本学の広報を兼ねて、官公庁や産業界からの相談・見学依頼を受け入れます。
- (8) 岡山リサーチパークで開催された「おもしろ体験でえー」に8ブース出展しました。
【7月25日・26日】
- (9) 福山市立動物園と動物園動物に係る教育及び研究に関する連携協定を締結しました。
【平成27年3月5日】

2. 大学間の交流

平成23年度に終了したGP事業「岡山オルガノン」の構築に関する事業を、岡山県内16大学で構成する大学コンソーシアム岡山が継承しています。本学は加盟校として大学教育事業部、社会人教育事業部、産学官連携事業部を通じて大学連携を行い、岡山の活性化を目指しました。

3. 外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画しました。各委員会を通じて、産業界や

官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に努めました。

4. 研究成果の社会への発表



11月21日に「OUSフォーラム2014」を開催し、元シチズン時計(株)代表取締役社長 海野幹夫氏の特別記念講演や89件の研究シーズを紹介しました。

教育研究環境

■研究施設の充実

教育研究の充実を図るために、大型機器の導入やインフラの整備を行いました。

大型機器では精度の高い固体表面分析装置であるWDS(電子プローブ表面分析)装置を文科省研究整備等補助金に申請し採択されました。また、学内の情報ネットワーク幹線機器のリニューアルを行います。さらに私立大学戦略的研究基盤形成支援事業にも2件申請しました。

■ネットワーク災害対応再整備事業2014

平成18年度に整備された学内ネットワーク環境の更新を、平成28年度にかけての3年計画で実施します。第1期(平成26年度)は、11号館、25号館を中心に機器を更新し、学内ネットワークを今まで以上に快適に利用できる環境を提供しました。

学生の受入

■学生の受入方針

「建学の理念」に基づき、大学全体および学部、学科、研究科、専攻ごとに「アドミッション・ポリシー」を策定しています。入試要項やホームページ等にこの「アドミッション・ポリシー」を掲載し広く公開・周知することに努めました。

■入試方法等



教育とのリンクを図りながら、親切な対応、厳正な入試と危機管理にも配慮して実施します。本年度入試より、受験生の利便性を高めることを目的にインターネット出願を導入しました。

■オープンキャンパス等

受験生が進路先として適切かを判断するためのオープンキャンパスのほかに、科学のおもしろさを紹介するサイエンスレクチャーや、一般の方を対象とした公開講座を展開しました。

内部質保証

■自己点検

平成25年度に大学基準協会による大学認証評価を受審し、適合と判定されました。今年度は、平成25年度から始動した組織別評価委員会による自己点検・評価のシステムを定着させ、PDCAサイクルを実質的に機能させることによって、全学的な改善・改革に取り組みました。

■教員データベースの充実

教員データベースは、本学教員の教育研究活動を社会に情報公開することにより、社会的評価を受けることを目的としています。今年度は、内部質保証のひとつとして、自らのデータを点検・評価する

ことで、教育研究活動の改善・質の向上を図ることが出来るよう、教員データベースの充実を図りました。

■学外者の意見の反映

大学評価委員会の委員として、他大学教員1名、経済界1名、産業界1名の3名の外部委員を委嘱しました。今年度も引き続き委嘱し、自己点検・評価の実施方法、自己評価の在り方などについて意見を頂き反映させていきました。

50周年記念事業

■創立50周年記念事業

本学は今年度創立50周年を迎えました。50周年を記念し、以下の事業を継続して行います。

1. 新学舎の建設

新学舎の建設が平成27年度末の完成に向けて本格的に進行します。平成26年3月に起工式を行い、今年度は基礎工事が中心でした。

2. 募金事業

50周年記念事業募金を平成25年12月から開始しており、継続して募集を行っています。

3. 記念事業

教職員や学生が企画する記念事業を継続して行っています。



その他の取組等

■防災関係への取組

学生が安全なキャンパスで学習できる為に、5年計画の3年目となる防災用品の整備を進めています。

また防災訓練は9月に実施し、さらに実験室等での緊急対応の連絡体制を周知するために、緊急連絡方法を各室に掲示しました。学生便覧の地図上にAED、防火施設情報や障がい者トイレ等のバリアフリー情報を掲載しました。また、新学舎工事の安全確保のため、「工事ナビ」を設け、スマホやPCを通じて学生に工事情報を提供しています。

人事・組織

任期満了に伴い、副学長、学部長、研究科長の改選が行われ、平成26年4月より理学部長・理学研究科長に横山崇教授、総合情報学部長・総合情報研究科長に志野敏夫教授が新たに就任しました。各学科学長や各部署の役職者についても任期満了に伴い、改選が行われ、平成26年度より新しい組織体制でスタートしました。

事務組織においては、庶務部内の評価企画課と秘書課を統合して、秘書企画課に改編、また、教育学部新設のため、教育学部設置準備室を新たに設けました。

なお、昨年に引き続き、更なる学生支援、教育支援、研究支援の充実に向けて、事務組織の改編を検討、附属施設、附属研究所においても、より効果的な教育研究組織となるように、将来構想を検討しました。

主な行事

4月2日	入学前オリエンテーション
4月3日	入学宣誓式
4月4日 ～7日	新入生オリエンテーション
4月8日	在学生オリエンテーション
5月10日 ～11日	皐月祭
5月18日	就職進路懇談会
6月15日	オープンキャンパス
7月22日 ～8月1日	春学期定期試験
8月2日 ～3日	オープンキャンパス
9月6日 ～7日 13日	教育進路懇談会（地方） 教育進路懇談会（本学）
9月11日	秋学期オリエンテーション
9月23日	オープンキャンパス
10月5日	AO入試 専門学科・ 総合学科特別推薦入試Ⅰ期
11月3日	特別推薦入試 専門学科・ 総合学科特別推薦入試Ⅱ期
11月15日 ～16日	推薦入試A方式
11月21日	OUSフォーラム
11月22日 ～24日	半田山祭（大学祭）
12月14日	推薦入試K方式
1月17日 ～18日	大学入試センター試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数			秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人	社会人		
大 学 院	理学研究科 (博士)	13	6		39	15				
	理学研究科 (修士)	76	48		152	100				
	工学研究科 (博士)	5	1		15	7	4	1		
	工学研究科 (修士)	66	39	6	132	67	11			
	総合情報研究科 (博士)	2	3		6	5		2	1	
	総合情報研究科 (修士)	20	16	2	40	26	2			
	大学院 計	182	113	8	384	220	17	3	1	
理 学 部	応用数学科	95	114	1	380	464	1			
	化学科	70	96		280	354				
	応用物理学科	70	73		280	290				
	基礎理学科	75	89		300	351				
	生物化学科	85	108		340	413				
	臨床生命科学科	85	95		340	411				
	動物学科	40	47		160	190				
	計	520	622	1	2,080	2,473	1	0	0	
	工 学 部	バイオ・応用化学科	75	86		300	361	1		
		機械システム工学科	85	109	3	340	416	11		
電気電子システム学科		70	74	2	280	319	13		2	
情報工学科		85	103	2	340	422	4			
知能機械工学科		55	57	9	220	208	20		4	
生体医工学科		60	55	3	240	218	18		3	
建築学科		70	90	8	290	314	23			
計		500	574	27	2,010	2,258	90	0	9	
総 合 情 報 学 部	情報科学科	80	100	1	320	368	5			
	生物地球システム学科 (募集停止)		—	—	70	108				
	社会情報学科	80	95	2	320	364	13			
	建築学科 (募集停止)		—	—	—	6				
	計	160	195	3	710	846	18	0	0	
球 生 物 学 部 地	生物地球学科	120	140		320	376	1	1		
	計	120	140	0	320	376	1	1		
学部 計		1,300	1,531	31	5,120	5,953	110	1	9	
総合計		1,482	1,644	39	5,504	6,173	127	4	10	
理学部理学専攻科		30	0		30	0				
教職特別課程		50	7		50	7				
留学生別科		60	12	12	60	12	12			

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成26年5月2日～平成27年3月31日)に入学した者です (単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成26年度)

区分		修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	5	1	5	4	80%		2	2	6
	修士	83		78	67	86%	1	4	4	0
学部		1,226		1,045	900	86%	133	123	125	465
教職特別課程		5		5	5	100%		2	0	0
留学生別科		9					8	0	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成27年4月1日現在) (単位:人)

主な就職先	JFEスチール(株) (株)大林組	新日鉄住金(株) (株)奥村組	(株)クラレ (株)中国銀行	(株)永谷園 西日本旅客(株)	他
-------	----------------------	--------------------	-------------------	--------------------	---

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	1	2	163	62	34	4	2	1	1	271

※学長・副学長除く

事務職員	うち大学職員	
	うち大学職員	うち本部職員
200	112	88

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	26年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	8,922,462	8,773,196
補助金収入	784,113	922,577
その他収入	955,352	754,205
帰属収入合計	10,661,928	10,449,979
基本金組入額合計	△ 41,905	△ 270,796
消費収入の部合計	10,620,024	10,179,183
人件費	5,218,417	5,274,855
教育研究経費	2,576,373	2,721,719
管理経費	692,371	532,600
その他支出	140,938	314,752
消費支出の部合計	8,628,099	8,843,927

■施設設備整備（抜粋）

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを実施するとともに、改修工事を行いました。

また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器を計画的に整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
第11号館2階・6階～8階トイレ改修工事	34,900
第4号館1階～4階トイレ改修工事	27,810
第22号館コンビニ横トイレ改修工事	820
第25号館4階・5階テニスコナー改修工事	1,750
第4号館1階ムスリム礼拝室改修工事	1,600
第22号館6階化学実験室電源増設工事	1,130
第11号館喫茶棟トイレ改修工事	1,440
ミュージックハウスへ昇る階段の手摺設置工事	426
第25号館入り口掲示板設置工事	459
斜行エスカレーター西猪対策フェンス設置工事	1,600
第22号館西側落石防止柵設置工事	2,770
生命動物教育センター貯水槽土間設置工事	450
自然植物園生体システム園入り口門扉設置工事	854
東門ゲート改修工事	740
笹ヶ瀬弓道場防矢フェンス設置工事	950
新建物建築費（設計・監理、建築中間金）	2,975,600

主な装置・設備関係

(その他の大型機器)

(単位:千円)

事業名	金額
WDS 電子プローブ表面分析装置 (補助金決定額: 42,249)	67,300
ネットワーク災害対応再整備事業2014 内訳: 機器等購入分 (35,860) ソフトウェア (1,031) その他作業費 (8,109) [補助金不採択]	45,000
第4世代ネットワーク環境整備事業(支線)第1期	6,500

主な共同研究

(単位:千円)

事業名	金額
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業共同研究	17,882
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	39,968